

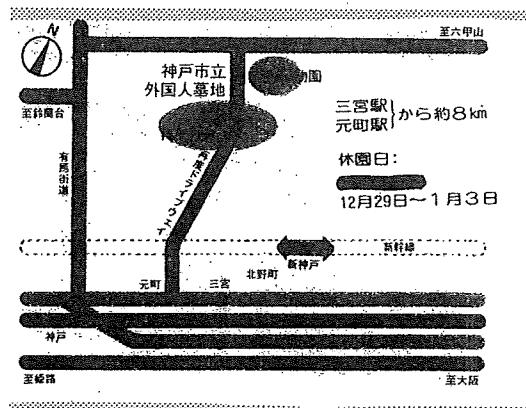
# 神戸市立外国人墓地に朝鮮ゆかりの宣教師墓地を訪ねる W.B.Scranton & L.L.Young

飛田 雄一

先週(3月22日)六甲山系の再度山にある神戸市立外国人墓地を訪ねた。姜在彦先生を中心とした「歴史の接点を歩く会」の11回目の例会にあたるもので、今回は私がガイドとなった。

もともとこの健康のために「歩く会」であるが、老人かつ酒好きが多く、往路の山道3キロは全員タクシーで登ることになった。タクシーを降りてから申し訳程度に歩いて外国人墓地に向う。現在一般には出入りが禁止されているが、人物を特定しての参拝は遺族でなくても許されている。事務所で姜在彦先生が代表して記帳をして宣教師の墓地に向う。墓地には「番地」がついていて、スクラントンは「B1区10番」、ヤングは「B1区18番」だ。この番地が分かっていればだれでも参拝できる。

スクラントン宣教師は、墓地が神戸にあることだけが判明していたが韓国の研究者の間でも晩年の彼の行動が不明とされている方である。我々の朝鮮語の先生でもあった韓国基督教歴史研究所の徐正敏さんから依頼を受けて私が外国人墓地のリストを調べて墓地を特定したのである。韓国では私が恥



ずかしながら「第一発見者」として紹介されている。関係者と二度目の訪問をしたとき、スクラントン墓地のすぐ近くにヤングの墓地があることがわかったのである。最近、神戸学生青年センターに韓国の研究者や牧師が来られたときには、私が神戸の新しい「名所」として案内役を務めている。

ちなみに今回の「歩く会」の復路はみんな元気に、酔っ払いながら大竜寺→市ヶ原→布引の滝→新神戸駅のコースを歩いている。

以下、おふたりの略歴を紹介する。

## William Benton Scranton

1856~1922

スクラントンは、アメリカ監理会韓国医療宣教師で、韓国名は「施蘭敦」。

1856年5月29日、アメリカ・コネチ



カット州ニュー  
ヘブンで生まれ  
た。母は、梨花  
女子大をつくつ  
たスクラントン  
夫人である。  
1878 年エール  
大学、1882 年  
にニューヨーク

医科大学を卒業した後に一時開業し医者として活動したが、1885 年 2 月 3 日、母、妻そして同監理会宣教師である H.G. アベンテラー夫妻とともにサンフランシスコを出発、韓国に向った。日本でしばらく滞在した（横浜で朴泳孝が日本語を教えたという説もある。

【『韓国人名大事典』1967、ソウル、  
新丘文化社】。

同年 5 月 3 日、監理会宣教師としては最初にソウルに到着した。北米長老会宣教師 H.G. アレンが経営する済衆院でともに医療活動を行い、9 月 10 日からは貞洞病院を開院した。ついで病院の名前を「施病院」（高宗が命名したという説あり。前掲書）として施設規模を拡張して 1887 年には上洞病院を設立した。1892 年からは上洞病院内に上洞教会を設立しその担任牧師となる。ハングル聖書翻訳委員会の翻訳委員にも委嘱され聖書事業にも大きな貢献をし、1907 年 6 月、22 年間の韓国宣教師としての仕事を終え、1922 年 3 月神戸で死亡した。【『基督教大百科事典 9』1983.6、ソウル】

徐正敏さんによると、時の政権に

近づくことなく、「裸足の医者」的に最後まで働いた宣教師だということだ。

## Luther Lisgar Young

1875～1950

カナダ長老会宣教師で、韓国名「榮在馨」。1906 年朝鮮にわたり咸興、城津、元山等の宣教部に配属されて主に教会の仕事に従事したが、1925 年から教派を離れて宣教活動を行う。1927 年には日本に赴任し、神戸に根拠地をおいて九州からサハリンまで広範囲に散在していた朝鮮人を対象とした宣教を開始し、解放前までに彼が設立した教会だけでも 61 教会に達する。1931 年神戸で彼の宣教 25 周年記念式が挙行され、1934 年には韓国人教会だけで作られた在日朝鮮基督教会（大会）の初代の会長となる。

第 2 次世界大戦勃発により 1942 年

（在日大韓

基督教会宣

教 90 年略

史では

1939 年）

帰国を余儀

なくされた。

終戦後再び

日本に渡っ

て戦後の教

会再建に尽

力していた

1950 年 2 月日本で死亡したが、彼の葬儀は在日大韓基督教会総会葬として挙行された。【『基督教大百科事典 1 1』1984.1、ソウル】（※この辞典によるとヤングのスペルは Lihter Lisger Young、墓石によって訂正した。）

